

# おかあさん方の

## グループ活動

午後二時～三時半 生花

(若い教師)

(木) 午前十時～十二時 英語

四月から月曜日に新しく始める  
方のためにもう一組新設。

(金) 全体の集まりの為にあげてある。

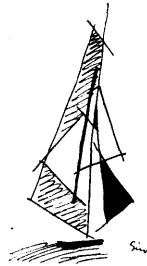
読書会——一カ月一～二回(曜日はその  
都度きめる)

母の会——一カ月一回(金曜日午後)

### ○各グループの講師と内容

この近辺の家庭は子どもの教育にたいへん熱心で、子どもの教育のためには費用を惜しみなく使うが、母親自身のためにはあまり使えない、自分のために使うのは遠慮がちな方々が多いとのこと。それであるべく費用がかからないように工夫し、講師の費用の実費を頭割りにして、だいたい平均して、一グループのために一人が二百円ぐらい払っています。

△人形劇▽



二月二十二日(金)、吉祥寺の泉幼稚園に大泉てい子先生をお訪ねし、おかあさん方のグループ活動についてお話を伺いました。

昨年十月、間口二・四間、奥行四・五間の洋間と、それにつづいて六畳二間の和室が、おかあさん方の集まりのために建てられました。この部屋は次のように活発に利用されています。

### ○現在の集会

(月) 午前十時～十二時 人形劇

(水) 午前十時～十二時 生花(母親)

二時～三時 コーラス

(火) 午後一時～二時 保健美容体操

(母親のため)

二時～三時 保健美容体操

(祖母のため)

週二回、男の先生が園児と遊んだり、人形劇、絵ばなし、ベープサードなどをしに来られます。「この先生はただ子どもたちと遊ぶだけです。子どもたちにたいへん慕われ、いつも子どもたちはこの先生を待っています。幼稚園には男の先生が必要だと感じさせられます」と大泉先生は言われます。この先生がおかあさんたちの人形劇グループの指導をされます。

ちょうど、あしたの卒業祝いの集りに人形劇をするので、グループの練習が始まりました。登場するのはご自分たちでつくられたウサギ、ブタ、サル、キツネなどの人形です。ほかの動物たちをいじめるいじわるギツネがみんなにあやまって動物たちは仲直り、友だちになったしるしに、できたばかりの泉幼稚園園歌（小林純一作詞、中田喜直作曲）を歌うという劇でした。「ああ楽しいわね」「ほんとに楽しくなっちゃうわね」とおかあさん方はいかにも楽しそうでした。

#### △保健美容体操△

大泉先生の友人の紹介で、日本テレビの園節子氏が指導されています。おかあさん方のグループと、おばあさん方のグループがあり、おばあさん方も寒い間は二〜三人でしたが元気に続けられました。

#### △コーラス△

母の会の中にフランスへ留学されたおかあさんがおられ、その方が指導されます。メンバーは二四〜二五人です。

#### △英語△

やはりおかあさん方の中に、大阪大学でられ教師をされた方があり、その方が指導されます。この地域は戦時中女学校へ入られた年代のおかあさん方が多く、ABCもかけない方も何人かいるので、中学一年のリーダーからはじめました。やさしい会話をさきみながらの指導は、おかあさん方にたいへん好評で、四十人ものおかあさん方が「これだけは休まないようにしたい」などとほりきっておられます。

#### △読書グループ△

このグループは、他のグループと違って歴史がたいへん長いのです。最初「教養講座」として一カ月一回大泉先生の指導ではじめられました。特に来てほしいおかあさん方、すなわち問題児、準問題児のおかあさん方には、個人的にさそいます。そういうおかあさん方ばかりだと、さそわれると自分の子どもは問題児かと思ったりするもので、一般のおかあさん方も一しょです。みんなで幼児心理や、しつけの問題などを話し合います。例えば「うちの子はちっとも母の手から離れなくて困っているが、どうしたらよいでしょう」という質問が出されると、すでにそういう問題を解決した経験のある母親から体験談が話されます。みんながざっくばらんに話し合い、これは保育の上にとたいへんよい参考になったとのこと。

この「教養講座」が、他のグループができてからも「読書グループ」として残りま

した。主として、幼児心理や、幼児のしつけに關した本を読みました。お茶の水女子大学の稲垣氏、大橋氏、松村氏などにも来ていただきました。近くの学校の先生にも五、六回来ていただきました。

このへやは図書閲覧室も兼ねています。

このグループが読書グループになったとき、おかあさんが家にある本を持ち寄り、幼稚園の先生方も、おかあさんに読んでいただきたい本を持ちより、大泉先生の本も加えて貸出し文庫ができました。図書の整理、貸出し、修理の係がグループの中から選ばれ、貸出料十円ときめられました。今この図書はほとんど利用され、たった貸出料で何冊かの新しい本が買えました。購入もみんなで読みたい本を出し合つて係がします。本棚には、保育雑誌や保育のための参考書類の他に、「何でもみてやろう」とか「人間の条件」なども並んでいました。

最近、まとまった勉強がしたいという声

が起こり、十余人の方が歴史の勉強を希望しています。このおかあさん方は戦時中、国粹主義の考え方の中で育てられたため「あなた方は、新しい歴史観を学ぶ必要があるのよ。思いきって考古学から勉強をはじめたら？」と大泉先生はおかあさん方にすすめ、近くにお住いの、大学を退職なされた先生方に指導をお願いしたいと考えておられるそうです。

### ○これらのグループ活動を始められた

#### 動機

「おかあさん方に勉強がしてもらいたかったのです」と大泉先生は言われます。おかあさん方が気軽に集まれる勉強の場がなかなかありません。それで先生は前からそんな場がほしいと考えておられました。たまたま先生が以前に高校の教師をされた関係で、園児の母親の中に教え子がいることを発見されました。「あなたたちは戦時中であまり勉強しなかつた組じゃないの？」

「ええそうなんですよ」「勉強したくありませんか?」「とてもしたいのです」ということがきっかけで始められました。事前の準備は充分に必要でした。勉強しやすい時間はいつ頃か、時間数は、費用はと調べました。おかあさん方は、「朝子ども幼稚園に送り出し、掃除、洗濯など雑用をさせてやれやれとするのが朝十時頃、それからお昼頃までは、何となくお茶を飲んだりばんやりとして、一番無駄に過してしまふんですよ」ということなので、その時間を選びました。美容体操の時間だけは講師の都合で午後ですが、また各講師の先生との事前の打ち合わせも充分しました。母親の間摩擦がおこらないように、例えば英語の時間に、「いきなりだれかに指名して読ませたりしたら、もう来なくなってしまうから」などと講師の先生方と話し合いました。「事前の準備はとて必要です」と話しておられました。

この地域で一戸をかまえることのできる

家庭の特色らしく、母親の年齢が三十才以下の方がたいへん少なく、ほとんどが三十才以上だとのことです。三五―六才で初めての子を幼稚園へ入れる母親、四三才で初めての方、今までで一番最高は四八才で最初の子を入れた方がありました。二番目、三番目の方ももちろんあります。「みな戦争

という共通の、悲惨な経験を通じて来られた方々で、共通した考え方があるようです。そのためかわたしととてもよく話が合います。また教え子がいるせい、か、どのおかさんも生徒のように思え、高校のクラブ活動の延長のような感じです。『もう少しいっしょうけんめい勉強しなきゃ、子どもに負けちゃうわよ』などと気軽に言えて、とてもやりやすいです」と大泉先生は言われます。

「グループ活動を始めて感じたことは、おかあさん方の求めているものが、生花やお料理のようなものが多いと思っていたのですが、歴史とか、英語とか、考えていた

より本質的なものにあるということです。英文学、美術史などの勉強も始められたらとても楽しいと思います。これは、この地域に大学を卒業された方もあったり、全般に教育程度が高い方々が集まっているせいもあるでしょう」

### ○グループ活動の効果

おかあさん方が生き生きとしてきました。「時間の使い方がうまくなったわね」などと話し合われ、必要な用をさっとかたづけてこのへやへ集まられるようになりました。幼稚園の先生方との接触も自然多くなり、お互いになじんで理解し合えます。幼稚園の内容、先生方の苦勞もわかり、保育がたいへんやりやすくなったとのことです。「先生と母親がいがみ合っていたのは、保育はやりにくいですから」

幼稚園の行事の時には、おかあさん方がすすんでコーラスや劇をほとんど全員でします。この時はみている母親は一人もいま

せん。ひっこみ思案の子どものために、その子の母親が積極的の壇にのぼってくれます。これは子どものために大きい影響があります。

大泉先生はおかあさんが劇をするとき、あまり練習しないで、即興でするようにすすめるそうです。「練習してあんまり上手になると各グループの競争になって、上手にできない人は出られなくなりますから、せりふも舞台の後で教えながらぐらいの方が楽しいです」

また、下準備のたいへんなこともわかって、行事の前にはよく手伝ってくれるようになりました。

一つのグループに参加する人、いくつものグループに顔を出す人いろいろですが、どのグループにも参加しないおかあさん方とは、どうしてもなじみがうすくなるそうです。

### ○母の会

月一回金曜日の午後、保育を早く終って母の会を開きます。ほとんどのおかあさんが出席されます。出られない方からは連絡があります。無断欠席の方には会の内容は伝えないことにしています。「伝える人の身になってもらんなさい」と無断で休まないようにすすめているそうです。

### ○個人面接

母の会では一般的なことしか話せません。それで大泉先生は一期の終り、二期の終りに母親と個人面接をしておられます。一学期の報告をおかあさんにするので、百六十人のおかあさんと個人面接をするのはたいへん時間がかかりますが、これは保育にとっても参考になります。

前には地域ごとにグループで面接をしていましたが、おかあさん方がいがみ合ったり、また個人的な話ができず、やりにくい思いをしたとのことです。たいへんでも個人的に会った方がやりやすく、話もよく出

るようになりました。

三期の終りには忙しいため、来てほしい方だけ手紙でよびます。

### ○来年度入園の母親

これはどこでもしているでしょうが、十二月に入園許可をして、二月に保護者会をします。このとき、されて困ること、注文を具体的にこまかく話します。例えば「お

金は袋に入れ、氏名を明記して出して下さい」などということまで。これは入ってからいやな思いをしないで済みます。

また、母親から離れにくい子どもは、入園前に時々つれて遊びに来てもらいます。今も弁当をもって来ています。三年保育のへやへ自由に入って一しょにお弁当を食べてもらいます。そのため四月にあまり困ることはありません。四月いっぱい親は門の中へ入らぬことにしています。四月中は參觀も禁止です。

母親は自発的に当番制で子どもの送り迎

えをしています。門の百メートル前で母と別れる約束にしています。この頃は家用車で来る子もいますが、その子も門の百メートル前で車を降りて、門は一人で歩いて入ってもらいます。

なるべく一人で登園してもらって、危険な地域の子どもは、先生が安全なところまで送っています。

### ○保育時間

今は水土は十二時まで、それ以外は二時までですが、四月からは、水土は十一時半、それ以外は一時半までになります。三年保育は木曜日休みで週五日制です。この方が休園が少ないようです。

### ○母の会の役員

最初一度会長を選挙したところ、どうも特権階級ができるようでも思わしくなかった。今、今は会長制をやめ、役員制にしたとのことです。役員は、特権階級、顔をきか

せる人ができないようにとののはからいか  
ら、当番制にし、一人っ子の母、末っ子の  
母が必ず引き受けるようにしました。下に  
小さい子のいる母は事実上できないので、  
初めに該当する母親の名前をプリントし  
て、その母親に自分の都合のよい学期を選  
んでもらいます。希望を出さない人は適当  
にわりあてられます。「わたしは神経痛だ  
から一期がいい」「わたしは忙しくない方  
がいいから一期」などと各々理由をつけて  
希望が出されます。末っ子を幼稚園へ入れ  
るときには、今年はしなければならぬと  
自分で覚悟しています。

役員制にしたいへんよかったそうで  
す。行事の時にすすんで手伝うのは、この  
役員のおかあさん方です。「しかし保育の  
ことはこちらにまかせてもらいます」と大  
泉先生は言われます。

母親が勉強するこうした設備のために、  
おかあさん方には負担を一つもかけないよ  
うにしています。その苦勞を察してか、こ

の間おかあさん方がバザーを開いてくれま  
した。それは成功で、十万円もの収益があ  
がり、何かに使って下さいと渡されたの  
で、大泉先生は、卒業生が残す記念品代と  
いっしょにして、グラランドピアノを買った  
とのことでした。

### ○卒業生の母親

子どもは卒業しても、おかあさん方は勉  
強をつづけたいと言ひ、四月からも続けら  
れます。「今までの同窓生のおかあさん方  
にもよびかけたいと思っています。最初の  
頃の方たちはそろそろ子どもたちの中学入  
学、高校入学問題に悩む頃で、そのおかあ  
さん方は、わたしが高校の教師をしていた  
ものですから時々相談に来られますが。同  
じ学校の母親には相談ができないのだそう  
ですね。そういうおかあさん方にも勉強し  
てもらいたいと思います。

みていると、おかあさん方が子どもに発  
言できるのは、小学校を卒業するまでです

ね。もう中学になると子どもになめられて  
何も言えないんです。そういったおかあさ  
ん方に、子どもになめられないように勉強  
してほしいと思います。  
だんだんに、この地域のおかあさん方の  
勉強する場としてどんどん利用していただ  
きたいと願っています」

大泉先生のご希望通り、この建物が、多  
くのおかあさん方がすすんで勉強する楽し  
い場として、もつともつと利用されるよう  
に願ひながら門を出しました。